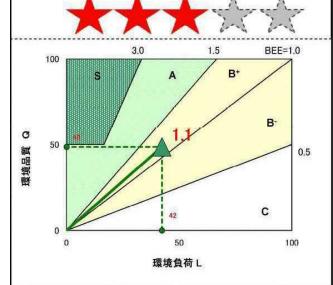
【八SBEE®熊本《新築》【性能表示】

1-1 建物概要				1-2 外観
建物名称	ラ・シック新町	階数	地上13階、地下0階	
建設地	熊本市中央区新町1丁目9-1、9-39	構造	RC造	See and busy and our man and
用途地域等	商業	平均居住人員	75 人	200 20
省エネ・地域区分	7地域	年間使用時間	8,760 時間/年	
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工時期	2026年1月 予定	評価の実施日	2024年10月18日	Towns Issued Street
敷地面積	479 m	作成者	BLOOM	
建築面積	237 m²	確認日	2024年10月22日	
延床面積	2,180 m²	確認者	вьоом	

2 CASBEE評価結果

建築物の環境効率(BEEランク&チャート)



BEE = 1.1

■BEE(環境効率) = ---

Q(環境品質)

L(環境負荷

■環境効率評価基準

= > . /-	ランク表示	⊕π:/±c	判定值	
ランク	フング衣示	評価	BEE値	Q値
S	****	素晴らしい	3.0以上	50以上
Α	****	大変良い	1.5以上3.0未満	1-12
B ⁺	***	良い	1.0以上1.5未満	-
B-	**	やや劣る	0.5以上1.0未満	())
С	*	劣る	0.5未満	-

■ライフサイクルCO₂ 排出性能評価基準

判定値(排出率)	ランク表示
30%以下	***
30%超60%以下	***
60%超80%以下	***
80%超100%以下	**
100%超	*

■ ライフサイクルCO。排出性能(ランク表示)



排出率

87%

2	能士	旧芸	上部	価結果
9	从公司	不主	而而	三十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二

重点事項総合評価

評価点

75







【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進

【重点事項2】安全安心で暮らしやすい社会の実現

【重点事項3】県の地域資源の有効活用と保全

【重点事項4】循環型社会の実現

評価点

82.6

68.7

60.0

78.9

■熊本県重点評価基準

判定値(評価点)	ランク表示
100点以上	66666
80点以上100点未満	6666
60点以上80点未満	666
40点以上60点未満	66
40点未満	4

※評価点は、100点以上が推奨です。

【**八SBEE**[®]-建築(新

▮評価結果

CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)







- ■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency(建築環境総合性能評価システム) ■G: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction(建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency(建築物の環境効率)
- イクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
- ■評価対象のライフサイクルCO2排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される ■LCCO2の算定条件等については、「LCCO2算定条件シート」を参照されたい

の項目水色セル欄に数値やコメントを記入
⇒Q1~Q3シートやLR1~LR3シートにおける<u>採点の根拠に倣って、要旨を記入</u>してください

スコアシート 実施設計段階						
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み	評価点	重み	全体
Q 建築物の環境品質		BI IMAN	係数	a i iini m	係数	2,9
Q1 室内環境			0.40		-	3.1
1 音環境		2.0	0.15	2.7	1.00	2.6
1.1 室内騒音レベル		3.0	0.50	3.0	0.50	
1.2 遮音		1.0	0.50	2.4	0.50	
1 開口部遮音性能	_	1.0	1.00	1.0	0.30	
2 界壁遮音性能			-	3.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝擊源)	_		-	3.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝擊源) 1.3 吸音	-		_	3.0	0.20	
2 温熱環境		2.4	0.35	3.1	1.00	3.0
2.1 室温制御		3.0	0.71	3.3	0.50	
1 室温		3.0	1.00	3.0	0.63	
2 外皮性能	【共同住宅(住居部】		_	4.0	0.38	
	等級4を満たす -	MARKET MARKET DESIGNATION AND ADDRESS MARKET			0.50	
3 ゾーン別制御性			-	-	-	
2.2 湿度制御 2.3 空調方式	-	1.0 -	0.29	3.0 3.0	0.20	
3 光·視環境		2.4	0.25	3.0	1.00	3.1
3.1 昼光利用		3.0	0.30	2.9	0.30	0.1
	【共同住宅(住居部)】					
	昼光率:1.50%(A Type)	-	-	4.0	0.50	
2 方位別開口		1411	_	1.0	0.30	
3 昼光利用設備	1	3.0	1.00	3.0	0.20	
3.2 グレア対策		1.0	0.30	4.0	0.30	
1 昼光制御	【共同住宅(住居部)】カーテンレール設置、バルコニー庇	1.0	1.00	4.0	1.00	
3.3 照度		3.0	0.15	3.0	0.15	
3.4 照明制御		3.0	0.25	3.0	0.25	
4 空気質環境 4.1 発生源対策		3.6 4.0	0.25 0.60	3.7 4.0	1.00 0.63	3.7
1 化学汚染物質	【共同住宅(共用部)】 規制対象品は全てF☆☆☆☆ 【共同住宅(住居部)】	4.0	1.00	4.0	1.00	
	規制対象品は全てF☆☆☆☆ -	3.0	0.40	3.3	0.38	
1 換気量	1	3.0	0.50	3.0	0.33	
2 自然換気性能	【共同住宅(住居部)】 0.25≧0.17(1/6) (A TYPE)	-	-	4.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.50	3.0	0.33	
4.3 運用管理]	-	-		-	
1 CO ₂ の監視	_		-	- -	-	
2 喫煙の制御			-	-		
Q2 サービス性能		- 24	0.30	-	1.00	3.0
1 機能性 1.1 機能性・使いやすさ		2.4 3.0	0.40 0.40	2.8 3.0	1.00 0.60	2.7
1 広さ・収納性	1	3.0	0.4 0	-	U.00	
2 高度情報通信設備対応	1			3.0	1.00	
3 バリアフリー計画		3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性 快適性		1.0	0.30	2.5	0.40	
1 広さ感■景観	【共同住宅(住居部)】			4.0	0.50	
2 リフレッシュスペース	居室天井高2.5m	-	_			
3 内装計画	1	1.0	1.00	1.0	0.50	
1.3 維持管理	1	3.0	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		3.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50	-		
2 耐用性・信頼性		2.9	0.30	-	-	2.9
2.1 耐震・免震・制震・制振	4	3.0	0.50		-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)	-	3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能	-	3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数 1 躯体材料の耐用年数	-	3.1 3.0	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数	J	3.0	0.20		-	

				2.0	0.20			
	3	外壁仕上げ材の補修必要間隔 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		2.0	0.10			
	4	空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10		-	
			【建物全体】		0.00			
	5	空調・給排水配管の更新必要間隔	給水•排水•給湯∶B	5.0	0.20		-	
	6	主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-	
2	2.4 _信頼	性		2.6	0.20		-	
	1	空調▪換気設備		3.0	0.20	-	-	
	2	給排水•衛生設備		2.0	0.20	-	-	
	3	電気設備		3.0	0.20		-	
	4	機械∙配管支持方法		3.0	0.20	-	-	
	5	通信•情報設備		2.0	0.20	-	-	
	応性・更			3.0	0.30	3.5	1.00	3.4
3	3.1 空間	<u>のゆとり</u> 「	】 【共同住宅(住居部)】	-	-	4.0	0.50	
	1	階高のゆとり		- -	-	4.0	0.60	
		+	【共同住宅(住居部)】					
	2	空間の形状・自由さ	0.10≦0.29<0.30(B TYPE)	-	-	4.0	0.40	
l ⊢,	 3.2 荷重	7 til				3.0	0.50	
		<u>のゆとり</u> の更新性		3.0	1.00	3.0	0.50	
'	3.3 武順	<u>の足利性</u> 空調配管の更新性		3.0	0.20		_	
	2	空調配官の更新性 給排水管の更新性		3.0	0.20			
	3	電気配線の更新性		3.0	0.20	_	_	
	4	通信配線の更新性		3.0	0.10			
	5	設備機器の更新性		3.0	0.20		_	
	6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20		_	
Q3 室		敷地内		J.0	0.30	_	_	2.5
		保全と創出		2.0	0.30		-	2.0
		ł観への配慮		3.0	0.40	-	-	3.0
		ペニティへの配慮		2.5	0.30	-	-	2.5
		性への配慮、快適性の向上		2.0	0.50	_	-	
		内温熱環境の向上		3.0	0.50	-	-	
		環境負荷低減性			-		-	3.3
LR1 I	ネルギー	-			0.40	-	-	3.5
1 建	物外皮σ	熱負荷抑制	【共同住宅】等級4	4.0	0.20		-	4.0
2 自	然エネル	ギー利用		3.0	0.10	-	-	3.0
3 104	備システ	 ムの高効率化	BEI=0.93	3.7	0.50	-	-	3.7
•=	率的運用				0.00			
, 703-				3.0	0.20		-	3.0
	集合	住宅以外の評価		3.0	-		-	3.0
	集合 4.1	住宅以外の評価 モニタリング		-		-		3.0
	集合 4.1 4.2	住宅以外の評価 モニタリング 運用管理体制		+	- - -	-		3.0
	集合 4.1 4.2 集合	住宅以外の評価 モニタリング 運用管理体制 住宅の評価		- - 3₌0	- - - 1.00	-		3,0
	集合 4.1 4.2 集合 4.1	住宅以外の評価		+	- - 1.00 0.50	-		3.0
	集合 4.1 4.2 集合 4.1	住宅以外の評価		3.0 3.0	- - - 1.00			3.0
LR2 資	集合 4.1 4.2 集合 4.1	住宅以外の評価		3.0 3.0 3.0	- - 1.00 0.50 0.50	-		
LR2 資 1 水	集合 4.1 4.2 集合 4.1 4.2 源・マテ	住宅以外の評価		3.0 3.0 3.0	1.00 0.50 0.50 0.30			3.0
LR2 資 1 水	集合 4.1 4.2 集合 4.1 4.2 源・マテ 資源保證 1.1 節水	住宅以外の評価		3.0 3.0 3.0 -	1.00 0.50 0.50 0.30			3.0
LR2 資 1 水	集合 4.1 4.2 集合 4.1 4.2 源・マテ 資源保證 1.1 節水	住宅以外の評価 モニタリング 運用管理体制 住宅の評価 モニタリング 運用管理体制 リアル		3.0 3.0 3.0 3.0 - 2.2 1.0	- 1.00 0.50 0.50 0.30 0.20 0.40			3.0
LR2 資 1 水i	集合 4.1 4.2 集合 4.1 4.2 源·マテ 資源保證 1.1 節水 1.2 雨水	住宅以外の評価 モニタリング 運用管理体制 住宅の評価 モニタリング 運用管理体制 リアル 利用・雑排水等の利用 雨水利用システム導入の有無 雑排水等利用システム導入の有無		3.0 3.0 3.0 3.0 - 2.2 1.0 3.0	- 1.00 0.50 0.50 0.30 0.20 0.40 0.60			3.0
LR2 資 1 水 1 2 非	集合 4.1 4.2 集合 4.1 4.2 源·マテ 資源保計 1.1 節水 1.2 雨水 1 2 再生性資	住宅以外の評価 モニタリング 運用管理体制 住宅の評価 モニタリング 運用管理体制 リアル 利用・雑排水等の利用 雨水利用システム導入の有無 雑排水等利用システム導入の有無		3.0 3.0 3.0 3.0 - 2.2 1.0 3.0	1.00 0.50 0.50 0.30 0.20 0.40 0.60 0.70			3.0
LR2 資 1 水 1 2 非	集合 4.1 4.2 集合 4.1 4.2 源·マテ 資源保閣 1.1 節水 1.2 雨水 1.2 再生性資 2.1 材料	住宅以外の評価 モニタリング 連用管理体制 住宅の評価 モニタリング 連用管理体制 リアル 利用・雑排水等の利用 雨水利用システム導入の有無 雑排水等利用システム導入の有無 雑排水等利用システム導入の有無		3.0 3.0 3.0 3.0 	1.00 0.50 0.50 0.30 0.20 0.40 0.60 0.70 0.30 0.60		-	3.0
LR2 資 1 水 1 2 非	集合 4.1 4.2 集合 4.1 4.2 源。マテ 資源保閣 1.1 節水 1.2 雨水 1.2 雨水 2.1 材料 2.2 既存	住宅以外の評価 モニタリング 連用管理体制 住宅の評価 モニタリング 連用管理体制 リアル 利用・雑排水等の利用 雨水利用システム導入の有無 雑排水等利用システム導入の有無 雑排水等利用システム導入の有無 に源の使用量削減 使用量の削減 建築躯体等の継続使用		3.0 3.0 3.0 3.0 	1.00 0.50 0.50 0.20 0.40 0.60 0.70 0.30 0.60 0.10 0.20		-	3.0
LR2 資 1 水 1 2 非	集合 4.1 4.2 集合 4.1 4.2 源。マテ 資源保閣 1.1 節水 1.2 雨水 1.2 雨水 2.1 材料 2.2 既存 2.3 躯体	住宅以外の評価 モニタリング 運用管理体制 住宅の評価 モニタリング 運用管理体制 リアル 利用・雑排水等の利用 雨水利用システム導入の有無 雑排水等利用システム導入の有無 雑排水等利用システム導入の有無 に源の使用量削減 使用量の削減 建築躯体等の継続使用 材料におけるリサイクル材の使用		3.0 3.0 3.0 3.0 	1.00 0.50 0.50 0.20 0.40 0.60 0.70 0.30 0.60 0.10 0.20 0.20		-	3.0
LR2 資 1 水 1 2 非	集合 4.1 4.2 集合 4.1 4.2 源。マテ 資源保閣 1.1 節水 1.2 雨水 1.2 雨水 2.1 材符 2.2 既存 2.3 躯体 2.4 躯体	住宅以外の評価 モニタリング 連用管理体制 住宅の評価 モニタリング 連用管理体制 リアル 利用・雑排水等の利用 雨水利用システム導入の有無 雑排水等利用システム導入の有無 雑排水等利用システム導入の有無 を開量の削減 使用量の削減 建築躯体等の継続使用 材料におけるリサイクル材の使用 財料以外におけるリサイクル材の使用		3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0	- 1.00 0.50 0.50 0.20 0.40 0.60 0.70 0.30 0.60 0.10 0.20 0.20		-	3.0
LR2 資 1 水 1 2 非	集合 4.1 4.2 集合 4.1 4.2 源。マテ 資源保閣 1.1 節水 1.2 雨水 1.2 雨水 2.1 材符 2.2 既存 2.3 躯体 2.4 躯体	住宅以外の評価 モニタリング 運用管理体制 住宅の評価 モニタリング 運用管理体制 リアル 利用・雑排水等の利用 雨水利用システム導入の有無 雑排水等利用システム導入の有無 雑排水等利用システム導入の有無 に源の使用量削減 使用量の削減 建築躯体等の継続使用 材料におけるリサイクル材の使用		3.0 3.0 3.0 3.0 	1.00 0.50 0.50 0.20 0.40 0.60 0.70 0.30 0.60 0.10 0.20 0.20		-	3.0
LR2 資 1 水 1 2 非	集合 4.1 4.2 集合 4.1 4.2 源·マテ 資源保閣 1.1 節水 1.2 雨水 2.1 材料存 2.2 既体体 4.3 躯体体 4.4 躯体体 4.5 持続	住宅以外の評価 モニタリング 運用管理体制 住宅の評価 モニタリング 運用管理体制 リアル 利用・雑排水等の利用 雨水利用システム導入の有無 雑排水等制制システム導入の有無 継那の使用量削減 使用量の削減 建築躯体等の継続使用 材料におけるリサイクル材の使用 可能な森林から産出された木材	【共同住宅】	3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0	- 1.00 0.50 0.50 0.20 0.40 0.60 0.70 0.30 0.60 0.10 0.20 0.20		-	3.0
LR2 資 1 水 1 2 非	集合 4.1 4.2 集合 4.1 4.2 源。マテ 資源保閣 1.1 節水 1.2 雨水 2.1 材存体料 2.2 既存 2.3 躯体 2.4 躯体 2.5 持続 2.6 部材	住宅以外の評価 モニタリング 運用管理体制 住宅の評価 モニタリング 運用管理体制 リアル 利用・雑排水等の利用 雨水利用システム導入の有無 雑排水等利用システム導入の有無 雑排水等利用システム導入の有無 を開量の削減 使用量の削減 建築躯体等の継続使用 材料におけるリサイクル材の使用 可能な森林から産出された木材 の再利用可能性向上への取組み	【共同住宅】 パーティクルボード(置床下地)	3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0	1.00 0.50 0.50 0.20 0.40 0.60 0.70 0.30 0.60 0.10 0.20 0.20 0.20 0.10		-	3.0 2.2
LR2 資 1 水 1 2 非 2 2 3 3 3 5;	集合 4.1 4.2 集合 4.1 4.2 源•マテ保閣 1.1 節水 1.2 雨水 1.2 雨生性資料 2.1 材存体体 2.3 躯体体体 2.4 躯体体体 2.5 持続	住宅以外の評価 モニタリング 連用管理体制 住宅の評価 モニタリング 連用管理体制 リアル 利用・雑排水等の利用 雨水利用システム導入の有無 雑排水等利用システム導入の有無 雑排水等利用システム導入の有無 を開量の削減 使用量の削減 建築躯体等の継続使用 材料におけるリサイクル材の使用 可能な森林から産出された木材 の再利用可能性向上への取組み に有材料の使用回避		3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0	- 1.00 0.50 0.50 0.20 0.40 0.60 0.70 0.30 0.60 0.10 0.20 0.20 0.10		-	3.0
LR2 資 1 水 1 2 非 2 3 汚 3	集合 4.1 4.2 集 4.1 4.2 源·マテ保謝 資源保 1.1 節水 1.2 雨水 1.2 既体体 2.1 材积体体 2.2 既体体 2.3 躯体体 2.4 躯体体 2.5 持続 2.6 部 对 食 2.6 部 对 食 3.1 有害	住宅以外の評価 モニタリング 運用管理体制 住宅の評価 モニタリング 運用管理体制 リアル 利用・雑排水等の利用 雨水利用システム導入の有無 雑排水等利用システム導入の有無 雑排水等利用システム導入の有無 を禁駆体等の継続使用 材料におけるリサイクル材の使用 材料におけるリサイクル材の使用 可能な森林から産出された木材 の再利用可能性向上への取組み 「有材料の使用回避 物質を含まない材料の使用		3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0	- 1.00 0.50 0.50 0.20 0.40 0.60 0.70 0.30 0.60 0.10 0.20 0.20 0.10 0.20 0.20 0.30		-	3.0 2.2
LR2 資 1 水 1 2 非 2 3 汚 3	集合 4.1 4.2 集合 4.1 4.2 源·マテ保閣 1.1 節水 1.2 雨火 2.1 材存体 2.2 既体体 2.4 躯体体 2.5 持続 2.6 部 對 全 3.1 有三 3.2 フロ	住宅以外の評価 モニタリング 連用管理体制 住宅の評価 モニタリング 連用管理体制 リアル 利用・雑排水等の利用 雨水利用システム導入の有無 雑排水等利用システム導入の有無 雑排水等利用システム導入の有無 を開量の削減 使用量の削減 建築躯体等の継続使用 材料におけるリサイクル材の使用 可能な森林から産出された木材 の再利用可能性向上への取組み に有材料の使用回避 物質を含まない材料の使用		3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0	- 1.00 0.50 0.50 0.20 0.40 0.60 0.70 0.30 0.60 0.10 0.20 0.20 0.10		-	3.0 2.2
LR2 資 1 水 1 2 非 2 3 汚 3	集合 4.1 4.2 集 4.1 4.2 源・マテ保 資源 係か水 1.2 雨・1 2.1 材 存体体体 2.1 材 存体体体 2.2 5 持 持 材 2.6 部 質害 3.1 有ココ 1.1 1	住宅以外の評価 モニタリング 運用管理体制 住宅の評価 モニタリング 運用管理体制 リアル 利用・雑排水等の利用 雨水利用システム導入の有無 雑排水等利用システム導入の有無 雑排水等利用システム導入の有無 を開量の削減 使用量の削減 建築躯体等の継続使用 材料におけるリサイクル材の使用 財料以外におけるリサイクル材の使用 可能な森林から産出された木材 の再利用可能性向上への取組み ・有材料の使用回避 物質を含まない材料の使用 ノ・ハロンの回避 消火剤		3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0	- 1.00 0.50 0.50 0.20 0.40 0.60 0.70 0.30 0.60 0.10 0.20 0.20 0.10 0.20 0.20 0.10		-	3.0 2.2
LR2 資 1 水 1 2 非 2 3 汚 3	集合 4.1 4.2 集 4.1 4.2 源・マテ保 資源 係か水 1.2 雨・1 2.1 材	住宅以外の評価 モニタリング 運用管理体制 住宅の評価 モニタリング 運用管理体制 リアル 利用・雑排水等の利用 雨水利用システム導入の有無 雑排水等利用システム導入の有無 雑排水等利用システム導入の有無 を開量の削減 使用量の削減 建築躯体等の継続使用 材料におけるリサイクル材の使用 可能な森林から産出された木材 の再利用可能性向上への取組み ・有材料の使用回避 物質を含まない材料の使用 ア・ハロンの回避 消火剤 発泡剤(断熱材等)		3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0	- 1.00 0.50 0.50 0.20 0.40 0.60 0.70 0.30 0.60 0.10 0.20 0.20 0.10 0.20 0.20 0.10		-	3.0 2.2
LR2 資 1 水 2 非 2 3 汚:	集合 4.1 4.2 集 4.1 4.2 源·マテ 資源 形水 1.2 雨水 1.2 雨水 2.1 材既躯体 2.2 既躯体体体 2.4 躯体 3.1 有口 3.1 有口 2.3 象地 4.3 可 2.3 可 3.1 可 3.2 可 1 2 3 3 3 3 3 3 3 7 0 1 2 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3	住宅以外の評価 モニタリング 運用管理体制 住宅の評価 モニタリング 運用管理体制 リアル 利用・雑排水等の利用 雨水利用システム導入の有無 維排水等の制測 使用量の削減 使用量の削減 を用いまけるリサイクル材の使用 対料以外におけるリサイクル材の使用 可能な森林から産出された木材 の再利用可能性向上への取組み 有材料の使用回避 物質を含まない材料の使用 ニハロンの回避 消火剤 発泡剤(断熱材等)		3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0	- 1.00 0.50 0.50 0.20 0.40 0.60 0.70 0.30 0.60 0.10 0.20 0.20 0.20 0.20 0.20 0.30		-	3.0 2.2 3.3
LR2 資 1 水 2 非 2 3 3 汚:	集合 4.1 4.2 集 4.1 4.2 源源 7 不 预源 形 1 2 两生性 料 1.2 既躯体体体 2.3 躯体 2.4 躯体 3.1 7 回 3.1 7 回 2.3 验物 看 言 3.2 2.4 3 3 .1 .1 .2 .3 .1 .1 .2 .3 .1 .1 .1 .2 .3 .1 .1 .1 .2 .3 .1 .1 .1 .2 .3 .1 .1 .1 .2 .3 .1 .1 .1 .1 .1 .1 .1 .1	住宅以外の評価 モニタリング 運用管理体制 住宅の評価 モニタリング 運用管理体制 リアル 利用・雑排水等の利用 雨水利用システム導入の有無 維排水等の制測 使用量の削減 使用量の削減 を用量の削減 を開発を変換をいるいません。 対料におけるリサイクル材の使用 可能な森林から産出された木材 の再利用可能性向上への取組み 有材料の使用回避 物質を含まない材料の使用 ニハロンの回避 消火剤 発泡剤(断熱材等) 冷媒	パーティクルボード(置床下地)	3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0	- 1.00 0.50 0.50 0.20 0.40 0.60 0.70 0.30 0.60 0.10 0.20 0.20 0.20 0.20 0.30 0.70 - 0.50 0.50 0.50		-	3.0 2.2 3.3
LR2 資 1 水 2 非 2 非 3 汚:	集合 4.1 4.2 集 4.1 4.2 源 不 不 保 	住宅以外の評価 モニタリング 運用管理体制 住宅の評価 モニタリング 運用管理体制 リアル 利用・雑排水等の利用 雨水利用システム導入の有無 維排水等の制測 使用量の削減 使用量の削減 建築躯体等の継続使用 材料におけるリサイクル材の使用 可能な森林から産出された木材 の再利用可能性向上への取組み 有材料の使用回避 物質を含まない材料の使用 ニハロンの回避 消火剤 発泡剤(断熱材等) 冷媒 たの配慮		3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0	- 1.00 0.50 0.50 0.20 0.40 0.60 0.70 0.30 0.60 0.10 0.20 0.20 0.10 0.20 0.20 0.30 0.70 - 0.50 0.50 0.33		-	3.0 2.2 3.3 3.0
LR2 資 1 水 2 非 3 汚: 3 汚: 3 湯 1 地: 2 地:	集合 4.1 4.2 集 4.1 4.2 集 4.1 4.2 集 4.1 4.2 下	住宅以外の評価 モニタリング 運用管理体制 住宅の評価 モニタリング 運用管理体制 リアル 利用・雑排水等の利用 雨水利用システム導入の有無 維排水等制制 使用量の削減 使用量の削減 建禁解体等の継続使用 材料におけるリサイクル材の使用 可能な森林から産出された木材 の再利用可能性向上への取組み 有材料の使用回避 物質を含まない材料の使用 ニハロンの回避 消火剤 発泡剤(断熱材等) 冷媒 ・の配慮 ・の配慮 ・の配慮	パーティクルボード(置床下地)	3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0				3.0 2.2 3.3
LR2 資 1 水 2 非 3 汚 3 汚 1 地 2 地 2 地 2 地	集合 4.1 4.2 集 4.1 4.2 集 4.1 4.2 集 4.1 4.2 集 4.1 1.2 東 1.1 下 1.2 下 1.2 下 1.2 下 1.2 下 1.2 下 1.3 下	住宅以外の評価 モニタリング 運用管理体制 住宅の評価 モニタリング 運用管理体制 リアル 利用・雑排水等の利用 雨水利用システム導入の有無 維排水等制制 建築が乗り削減 使用量の削減 使用量の削減 使用量の削減 ではおけるリサイクル材の使用 対料におけるリサイクル材の使用 可能な森林から産出された木材 の再利用可能性向上への取組み 「有材料の使用回避 物質を含まない材料の使用 アハロンの回避 消火剤 発泡剤(断熱材等) 冷媒 「冷媒 「冷媒 「心配慮 「の配慮 「のにし 「のに 「し 「し 「し 「し 「し 「し 「し 「し 「し 「	パーティクルボード(置床下地)	3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0				3.0 2.2 3.3 3.0
LR2 資: 1 水; 2 非 3 汚; 3 汚; 1 地; 2 地;	集合 4.1 4.2 集 4.1 4.2 集 4.1 4.2 東 4.1 1.2 東 1 東 2 性 1 東 2 性 1 東 2 1 東 2 2 2 3 躯 4 東 3 3 2 フロー 2 3 3 2 フロー 2 3 2 2 3 2 3 2 3 3 2 2 3 3 2 3 3 2 3 3 2 3 3 2 3 3 2 3 3 3 2 3 3 3 2 3 3 3 2 3 3 3 2 3 3 3 2 3	住宅以外の評価 モニタリング 運用管理体制 住宅の評価 モニタリング 運用管理体制 リアル 利用・雑排水等の利用 雨水利用システム導入の有無 維排水等利用システム導入の有無 維排水等利用システム導入の有無 におけるリサイクル材の使用 財料以外におけるリサイクル材の使用 対料におけるリサイクル材の使用 可能な森林から産出された木材 の再利用可能性向上への取組み ・有材料の使用回避 物質を含まない材料の使用 ブルカー ・カックに ・カック	パーティクルボード(置床下地)	3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0				3.0 2.2 3.3 3.0
LR2 資: 1 水; 2 非; 3 汚; 3 汚; 1 地; 2 地;	集合 4.1 4.2 集 5.2 年	住宅以外の評価 モニタリング 運用管理体制 住宅の評価 モニタリング 運用管理体制 リアル 利用・雑排水等の利用 雨水利用システム導入の有無 雑排水等利用システム導入の有無 維排水等利用システム導入の有無 におけるリサイクル材の使用 材料以外におけるリサイクル材の使用 可能な森林から産出された木材 の再利用可能性向上への取組み ・有材料の使用回避 物質を含まない材料の使用 アハロンの回避 消火剤 発泡剤(断熱材等) 冷媒 ・の配慮 ・の配慮 ・ ・の配慮 ・ ・の配慮 ・ ・の配慮 ・ ・ででは、などのでは、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	パーティクルボード(置床下地)	3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0				3.0 2.2 3.3 3.0
LR2 資: 1 水; 2 非 3 汚; 3 汚; 1 地; 2 地;	集合 4.1 4.2 4.2 4.1 4.2 4.2 4.1 4.2 4.2 4.1 4.2 4.2 4.2 4.2 4.2 4.2 4.2 4.2 4.2 4.2	住宅以外の評価 モニタリング 運用管理体制 住宅の評価 モニタリング 運用管理体制 リアル 利用・雑排水等の利用 雨水利用システム導入の有無 雑排水等利用システム導入の有無 維排水等利用システム導入の有無 におけるリサイクル材の使用 材料以外におけるリサイクル材の使用 材料以外におけるリサイクル材の使用 可能な森林から産出された木材 の再利用可能性向上への取組み ・有材料の使用回避 物質を含まない材料の使用 ・ハロンの回避 ・消火剤 発泡剤(断熱材等) 冷媒 ・の配慮 ・汚染防止 環境悪化の改善 インフラへの負荷抑制 雨水排水負荷低減	パーティクルボード(置床下地)	3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0				3.0 2.2 3.3 3.0
LR2 資: 1 水; 2 非 3 汚; 3 汚; 1 地; 2 地;	集合 4.1 4.2 集 4.1 4.2 集 4.1 4.2 東 4.1 1.2 東 1 東 2 性 1 東 2 性 1 東 2 1 財	住宅以外の評価 モニタリング 運用管理体制 住宅の評価 モニタリング 運用管理体制 リアル 利用・雑排水等の利用 雨水利用システム導入の有無 雑排水等利用システム導入の有無 維排水等利用システム導入の有無 におけるリサイクル材の使用 材料以外におけるリサイクル材の使用 材料以外におけるリサイクル材の使用 可能な森林から産出された木材 の再利用可能性向上への取組み ・有材料の使用回避 物質を含まない材料の使用 ・ハロンの回避 ・消火剤 発泡剤(断熱材等) 冷媒 ・の配慮 ・汚染防止 環境悪化の改善 ・の配慮 ・汚染防止 環境悪化の改善 ・の配慮 ・汚水処理負荷抑制 ・雨水排水負荷低減 ・汚水処理負荷抑制	パーティクルボード(置床下地)	3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0				3.0 2.2 3.3 3.0
LR2 資 1 水 1 2 非 3 3 汚 3 1 地 2 地 2 地 2 地	集合 4.1 4.2 4.2 4.1 4.2 4.2 4.1 4.2 4.2 4.1 4.2 4.2 4.2 4.2 4.2 4.2 4.2 4.2 4.2 4.2	住宅以外の評価 モニタリング 運用管理体制 住宅の評価 モニタリング 運用管理体制 リアル 利用・雑排水等の利用 雨水利用システム導入の有無 維排水等利用システム導入の有無 維排水等利用システム導入の有無 におけるリサイクル材の使用 財料以外におけるリサイクル材の使用 対料におけるリサイクル材の使用 可能な森林から産出された木材 の再利用可能性向上への取組み ・有材料の使用回避 物質を含まない材料の使用 ブルカー 発力の回避 消火剤 発泡剤(断熱材等) 冷媒 ・の配慮 ・ ・の配慮 ・ ・の配慮 ・ ・の配慮 ・ ・で、のでには では、対域のは、対域のでは、対域のでは、対域のでは、対域のは、対域のは、対域のは、対域のでは、対域のが、対域のでは、対域のが、対域のが、対域のは、対域のが、対域のが、対域のが、対域のが、対域のは、対域のは、対域のは、対域のが、対域のは、対域のは、対域のは、対域のは、対域のは、対域のは、対域のが、対域のは、対域のは、対域のは、対域のは、対域のは、対域のは、対域のは、対域のは	パーティクルボード(置床下地)	3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0				3.0 2.2 3.3 3.0

3 月	司辺環	環境へ(の配慮		3.2	0.33		-	3,2
	3.1	騒音•	振動・悪臭の防止		3.0	0.40		-	
		1	騒音		3.0	1.00	-	-	
		2	振動		-	-		-	
		3	悪臭		-	-	-	-	
	3.2	風害、	砂塵、日照阻害の抑制		3.0	0.40	-	-	
		1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
		2	砂塵の抑制			-	_		
		3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
	3.3	光害の)抑制		4.4	0.20		-	
		1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	【建物全体】 ・光害対策ガイドラインのチェックリストの一部を満たす ・広告物照明無し	5.0	0.70	-	-	
		2	昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30		-	

印刷:モノクロ 設定済み ・適宜、箇条書き等で記入してください。

・キーボード操作: 改行の際は【Alt】キー&【Enter】キーで次の行に進みます。

	<u> </u>
	計画上の配慮事項 ※必ず、何らかのコメントを記入してください。
総合	良好な景観になるよう外観の色調などに配慮し、敷地内に緑地スペースを計画した。
Q1 室内環境	•屋根、外壁など外部に接する部分は断熱材を設置し、各住戸に開口部もできる限り大きくとる ことで居住者の快適性に努めた。 •規制対象品は全てF☆☆☆☆を使用。
Q2 サ ー ビス性能	・バリアフリー新法の建築物移動等円滑化基準を満たす計画とした。 ・居室の天井高を2.5m確保し、居住者にゆとりのある空間を提供することに努めた。
Q3 室外環境 (敷地内)	■敷地内に緑地スペースを計画とした。
LR1 エネルギー	•外部に面する部分は断熱材を設置し、空調負荷の軽減に配慮した。
LR2 資源・マテリアル	■躯体と仕上材を容易に分別できる設計仕様とし部材の再利用に努めた。■断熱材や空調機冷媒には、環境負荷の少ない材料を選定した。
LR3 敷地外環境	■敷地内に十分な駐車、駐輪スペースを設け、居住者の利便性に努めた。
その他	

建物名称 ラ・シック新町

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版

	熊本県重点	评価結果			级	合評価点	75	
重	点事項					重点事項	等压取上	
	重点項目(配成	隊項目)	スコア	重み 係数	評価点	重み係数	評価配点	
1	温室効果ガス	排出量削減の推進						
	Q1-2.1.2	外皮性能	4.0	0.00				
	Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.05		0.40		
	Q1-3.2.1	昼光制御	3.6	0.05				
	LR1-1	建物外皮の熱負荷抑制	4.0	0.16	82.6		33.04	
	LR1-2	自然エネルギー利用	3.0	0.21				
	LR1-3	設備システムの高効率化	3.7	0.32				
	LR2-2.1	材料使用量の削減	2.0	0.11				
	LR3-2.3.3	交通負荷抑制	3.0	0.11				
2	安全安心で暮	らしやすい社会の実現						
	Q2-1.1.3	バリアフリー計画	3.0	0.25				
	Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25	68.7	0.20	13.74	
	Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.15	00.7	0.20	13.74	
	Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	2.5	0.20				
	LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.15				
3	県の地域資源	の有効活用と保全						
	Q3-2	まちなみ▪景観への配慮	3.0	0.20				
	LR2-1.1	節水	1.0	0.30	60	0.20	12.00	
	LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20				
	LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	3.0	0.30				
4	循環型社会の	循環型社会の実現						
	Q2-2.2	部品•部材の耐用年数	3.1	0.30				
	Q2-3	対応性-更新性	3.4	0.30	78.9	0.20	15.78	
	LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10	70.8	0.20	13.70	
	LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15				
	LR2-2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15				

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点×各重点事項の重み係数)の総和 ※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①~④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア×各重点項目の重み係数)の総和×(5/4)×20

※重み係数の総和は、「1」であること。

※(5/4)×20:スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数